

翻訳の外国語教育への応用の可能性を探る —日本語字幕付き動画を教材とした TILT 実践の事例から—

ラムステン多夏子
(京都外国語大学)

Abstract

This paper will report on a series of TILT (Translation in Language Teaching) activities, using Japanese-subtitled videos, that were conducted in a Japanese university classroom by the author. A total of 57 learners majoring in a foreign language (mostly English) formed the participating group for these activities, which included certain EFL-based exercises, such as vocabulary building, listening (dictation), and writing (J-E translation). In addition, a learner-teacher collaborative translation activity was used that employed an EXCEL database as a simplified version of translation memory, a professional translation aid tool. Overall, the main purpose of this classroom-based research was to explore the potential for the use of TILT, with a strong focus on L2 production. The author contends that good results can be achieved by introducing new and original activities in this way, along with subsequent reporting on the work and responses of the participants who actually experienced them.

1. はじめに

TILT (Translation in Language Teaching) とは、翻訳を外国語教育に応用する外国語教育の一分野である。翻訳は、特に明確な根拠もなく、第二言語習得 (SLA) や外国語教育の分野から批判され、無視・排除され続けてきた (Cook, 2010)。これを背景に、母語や翻訳を使う教師に罪悪感 (Kerr, 2014) や劣等感さえも与えてきた。

わが国の学校英語教育でも、長きにわたり主流であった GTM (Grammar Translation Method)¹ による指導のもとで和英訳・英和訳が行われてきたが、語彙や文法の習得を主な目的とする逐語訳 (literal translation/word-for-word translation) が中心で、コミュニケーションを目的とする翻訳とは異なる。特に、和英訳については、ST (Source Text/起点テキスト) の意味を表現するために学習者が自分で語彙や構文を選択するのではなく、ST に対応させる英単語の並び替えや英文の空所補充問題が多く、それらは、あらかじめ用意された正解としての TT (Target Text/目標テキスト) に到達するための逐語訳タスクであった。翻訳には、訳出される TT が幾通りもあるのが通

RAMSDEN Takako, "Exploring the Potential for Applying Translation to Foreign Language Teaching: Using Japanese-Subtitled Videos in TILT Activities," *Invitation to Interpreting and Translation Studies*, No.21, 2019. pages 87-101. ©by the Japan Association for Interpreting and Translation Studies

常で(Bellos, 2011)、答えが一つになる和英訳問題は本来の翻訳とは性質の異なるものである。

欧州議会が設定したガイドライン CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠)の改訂版(2001)で、翻訳は、コミュニケーションのための言語活動として挙げる「受容」「産出」「相互作用」「仲介」の4活動のうち、「仲介」の一つに位置付けられている。翻訳がコミュニケーションの活動として再認識されたことから、ここ数年、第二言語習得(SLA)・外国語教育研究・翻訳通訳学の分野で、「翻訳が外国語教育に役立つ」という視点に立った研究や主張が増えてきた(山田・豊倉・大西, 2018)。Translation in Language Teaching (TILT)の著者 Cook は、翻訳は言語意識かつ言語使用の発達に重要な役割を持ち、教育方法として効果が期待できると述べ、現代のグローバル化が進む多文化社会に必要なスキルであると主張する(2010)。

15年以上、大学講師として英語教育に携わると同時に、実務翻訳者として日英・英日翻訳を行ってきた筆者も、翻訳を英語教育に応用する TILT 実践に高い関心を持っている。本稿は、TILT の中でも日英翻訳を用いて英語産出の力を伸ばすことを目的に、筆者が関西地方の私立大学で行った授業の実践報告である。

本実践には教材に英語プレゼンテーションの動画を選択し、ボキャブラリー・ビルディングとリスニング練習に日英翻訳演習を組み合わせた一連の TILT 活動を行った。プロの翻訳者が使う翻訳メモリ(翻訳支援ツールの一つ)からヒントを得た、既習表現を日英対応で蓄積する活動も行った。

この実践の開発の目的は、外国語学習活動と翻訳活動を組み合わせた TILT 授業を実施することで、翻訳を外国語教育に応用することの有効性を示唆することである。本稿では、本実践に参加した学習者の TILT 活動への取り組みや記述式アンケートの結果を紹介し、TILT 教授法の一提案としたい。

2. 翻訳を外国語教育に応用した TILT 実践の概要

本実践の学習者は、選択科目「Japanese-English Translation」を履修する外国語専攻(ほとんどが英語専攻)の2年生以上で、クラスは2つ(22人と35人:合計57人)あり、各クラスとも同じ内容で授業を行った。どちらも履修条件が TOEIC (Listening & Reading Test)の取得点数650点以上で、比較的習熟度の高い学習者対象のクラスであるが、TOEIC の取得点数を見る限りでは翻訳者養成のレベルには及ばない(インタースクール, 2019; サイマル・アカデミー, 2019)学習者が多い。そこで、TILT の手法を用いて、授業内活動を構成し実施した。

教材には、英語プレゼンテーションの動画を選び、1つの動画を2週間分の教材とした。授業1コマ(100分)のうち後半の約50分を使い、2週に分けて行う合計約100分の TILT 活動である。扱った動画は1学期間(14週)に4つで、合計8週の授業内で実施した。本実践時の外国語教育の活動は、語彙学習(学習語彙の収集と蓄積)・リスニングのトレーニング(ディクテーション)・英文ライティング(日英翻訳)を三本柱としており、プロの翻訳者が使う技術やツールを応用した翻訳演習と組み合わせた内容となっている。活動には個人で行う活動とペアで行う活動の両方を入れ、ピアと学び合う協働学習も含めた。

本実践では、英文ライティングのアクティビティとして日英翻訳を用いているが、一般的にこの 2

つは異なるタスクと認識されている。日英翻訳には ST がありその意味を保持して TT を作るが、いわゆる英文ライティングは ST がないため自分で語彙や構文を選択する。言語を発するという行為を頭の中の概念を翻訳する行為 (Paz, 1992)だと捉えれば、英文ライティングは、概念を英文に翻訳する行為と考えられる。一方、日英翻訳は概念を母語の日本語で与えられ、英文ライティング同様語彙や構文を選択しながら英文に翻訳する行為と言える。以上の理由から、日英翻訳を英文ライティングの一タスクとして捉え、本実践内の英語産出活動とした。

日英翻訳演習の ST には英語プレゼンテーションの日本語訳を用いた。学習者は ST を英語に翻訳した後、もとの英文(英語音声や英語スクリプト)と比較する。翻訳の正確さを検証する方法の一つに逆翻訳(バックトランスレーション)があるが、これと同様のプロセスである。なお、もとの英文は唯一の正解ではなく、自分の翻訳とは別のバリエーションとして参考にするように学習者に説明した。

授業内容の開発の際には、翻訳業界で利用されている翻訳メモリ(translation memory)を参考にした。この業界では、翻訳品質の安定や作業の効率を支援する目的でソフトウェアやクラウドのコンピュータ支援翻訳ツールが多く開発されており、翻訳メモリはその一つである。このツールを使って、自分または他人が過去に翻訳した等価の ST と TT を一対としてデータベース化し、その内容をリサイクルして新規の翻訳に利用する。このようなプロ向けの翻訳支援ツールを利用するには高い費用がかかる上、プロの翻訳技術も必要となり、外国語教育にそのまま使うには不向きである。そこで本実践では、エクセルを使った簡易翻訳メモリを、学習者と教師の協働作業で作成するようにした。翻訳メモリは、単に過去の翻訳をストックするだけではなく、簡単に検索できなければ意味がない。エクセルを使えば、情報源やトピックなどのカテゴリー別にシートを作成しても、ブック検索をすることで簡単に語彙や表現を見つけることができる。実際に筆者が仕事として翻訳をする際も、エクセルで、クライアント別やプロジェクト別に日英対応の翻訳データベースを作成し、翻訳作業に利用している。

3. 動画を教材とした一連の TILT 活動

前述の通り、本実践は、1 つの動画を 2 週で扱う、2 回で完結の一連の TILT 活動である。本稿では、第 1 週の 50 分を「DAY 1」、第 2 週の 50 分を「DAY 2」とし、各週の活動について、以下に説明する。

教材にはオンラインで手軽に見ることのできる英語のプレゼンテーション動画を用いる。動画は、英語のスクリプトと日本語対訳があり、日本語字幕を表示できるものを選ぶ。「手軽に」とは、会員登録など面倒な手続きのない無料でアクセスできる動画で、教材選択には、学習者が将来的に自主学习として同様の学習ができるように、という意図も含んでいる。本実践では、日本語に翻訳されている 4 本の英語の TED Talk を使った。履修条件が TOEIC 650 点の比較的習熟度の高いクラスであったため、「昆虫食」「イスラム教」など、社会問題を題材とする動画を選んだ。

実際に日英翻訳を行うのは DAY 2 で、DAY 1 は DAY 2 のプレ活動として以下のような TILT 活動を行う。

[DAY 1 (50 分)]

DAY 2 のプレ活動として、学習者全員と教師の協働作業で日英等価表現集(CTD: Class Translation Database)を作成する。

1. 教師は学習者に、スライドショーで写真を見せたり、ハンドアウトでクイズをさせたりして、トピックに慣れさせる。
2. プレゼンテーションの概要をつかむため、クラス全体で動画の前半を見る(動画全部を見るには時間がかかり、語彙などの情報量が多すぎるため、前半のみ)。英語のリスニングだけでは内容の理解は難しいので、日本語の字幕を表示しておく。
3. 次の 25-30 分間は個人で行う活動である。学習者は個人のスマートフォンを使用し、日英等価表現(日英対応表現)をハンドアウト(付録 1)にメモしていく。この時日本語の表現は日本語字幕から書き写し、英語の表現は聞いてディクテーションをする。単語単位ではなく、フレーズで書くように事前に指示しておく。「Wi-Fi につながらない」「充電がない」などの場合はペアで行っても良いとする。イヤフォンを使っても、音を出しても、どちらでも良いとする。
4. 最後の約 10 分はペアワークである。個々に書き溜めた日英等価表現から、ペアの Top 10 を選び、教師があらかじめ作成しておいた Google Form (アンケートなどのフォーム作成・集計システム)(図1)に、ペアで1台のスマートフォンから投稿する。日本語と英語の表現を並べて一つの項目に投稿するよう指示しておく。

QUESTIONS RESPONSES 31

TED 1 - Why not eat insects?

Choose the words and phrases (a maximum of 10) that you and your partner feel you should share with the class. Post a maximum of 10 J-E equivalents.

J-E equivalent 1
Long answer text

J-E equivalent 2
Long answer text

J-E equivalent 3
Long answer text

J-E equivalent 4
Long answer text

J-E equivalent 5
Long answer text

図 1 日英等価表現を投稿する Google Form

5. 授業終了後、教師が Google Form に投稿された全ての表現に目を通し、動画の英語スクリプトと日本語対訳を照合しながらエクセルの表に入力し、クラス全体の日英等価表現集 CTD を作成する。出来上がったら、翌週までに学習者が目を通しておけるよう、教師がアップロードしたファイルに学習者がアクセスできる LMS²(本実践では manaba)で共有しておく。

[DAY 2 (50 分)]

DAY 2 では、DAY 1 で作成した CTD を参考に、動画前半の日本語訳から 5 文を教師が選択し、これを ST として学習者が英語に翻訳する。その後、もとの英文が何であったかをディクテーションして確認する。

1. 学習者は DAY 1 で作成した CTD に目を通す。この後の英訳演習では、CTD と同じ表現を使う必要はないことを説明しておく。
2. 個人で英訳を行い、ハンドアウト(付録 2)に書き込む。この時、辞書やウェブサイトなど、何を使ってリサーチをしても良いと言っておく。ハンドアウトの「Your TT」は個人の英訳(TT = Target Text)を書く欄で、日本語文の下線部のみを英訳する。早く終わった学習者には、複数の英訳文を作るように指示する。
3. 個人の英訳の後、ペアで翻訳文を比べ合う。また、翻訳文の評価(正しく意味が伝わっているか)や英作文の評価(文法や語彙選択など誤りはないか)もさせる。
4. ペアで1台のスマートフォンを使い、該当の英文を協働でディクテーションする。この時、イヤフォンを使わないので教室中賑やかになるが、活動は可能である。ディクテーションは、一字一句聞き取れるように、事前に語数を与えておく。ハンドアウトの「Dictation (4,4)」とは、「4 ワード+コンマ+4 ワード」という意味である。動画のどの箇所が出てくるのか探しやすいように、大体の時間をハンドアウトに記しておく。しかし「大体の」なので、学習者は日本語文を頼りに、正確な位置を探さなくてはならない。
5. ディクテーションした英文・学習者の翻訳文・ペアの翻訳文、つまり、一つの日本語文に対する合計 3 通りの産出の仕方について、ペアで比較し合う。
6. 最後に教師の翻訳文を提示し、最終的には、一つの日本語文に対して 5-6 通りの産出の仕方を体験する。

4. 各 TILT 活動の結果と考察

各 TILT 活動別に、実践の結果を考察とともに以下に述べる。ここで紹介する例は、全て 1 つ目の「昆虫食」をテーマにした動画「Why not eat insects? (TED Global 2010)」のものである (Dicke, 2010)。この動画のスピーカーはオランダ人でネイティブスピーカーではないが、ディクテーションには特に支障はないと判断し、教材に選んだ。

4.1 日英等価表現を収集するディクテーション(DAY 1 個人活動)

日本語字幕を表示して動画を視聴しながら英語音声聞きとる個人のディクテーション活動である。字幕表示ができない学習者が数名いたが、TED Talk のサイトでは日本語訳文全体を表

示すれば、音声が流れている部分がハイライトされるので、この機能を使った学習者もいた。ほとんどの学習者が活動中集中して取り組んでいた。聞き取りが難しかったのか、この活動に意欲がなかったのか原因はわからないが、英語の字幕やスクリプトを見ている学習者もいた。聞き取ったものを確認していたとも考えられる。辞書は使用可としていたが、後で教師が正しいものを提示するので、語彙やスペルを間違っても良いとあらかじめ言っておいた。

以下の表1は、学習者4人のワークシートの内容である。この回は、初めての活動で不慣れであったこともあるため、どの学習者もあまり多くはメモしていなかった。翻訳メモリは、フレーズや文章で保存するものであり、本活動の初めに、フレーズや文章で書き取るように指示していた。しかし、学習者1や2のように辞書のように単語単位でメモする者も数名おり、活動中に指導した。逐語訳ではなく、コミュニケーション目的の翻訳を使った学習なので、学習者3や4のように表現を書き取るのが、本活動の意図であった。逐語的にメモする学習者があるのは、「1単語に対し1つの意味」といった、今までに行ってきた単語単位での語彙学習の影響が一つの原因として考えられる。

表1 日英等価表現を収集したディクテーションの例(個人活動)

学習者 1	学習者 2
ほにゅう類 mammals 豊富 abundant 規模 magnitude 受粉 pollination どうやってでしょうか What they would do? ふん dug 害虫 pests くじよする control	Why not～? ～しませんか? outbreak (病気が)発生する effect 実際に paying for～ ～に費やした pests 害虫 quit a lot of people かなり多くの人々 you can eat <u>something new</u> every day 毎日 <u>違う種類</u> が食べられる surimi stick カニかまぼこ
学習者 3	学習者 4
not presenting all population here (地球上の人口を代表してるわけではない) count all their visuals take an average 平均で比べる water manage you use お金をかける without everyone knowing 誰も知らない間に start the food chain 食物連鎖の始まり small prevention town 田舎の都市	Who of you ever ate insects? 虫を食べたことのある人は? That's quit a lots. 意外に多いですね。 Why not eat insects? 虫を食べませんか? Insects are animals walk around on six legs. 「虫」とは6本足がある生物 Insects are more abundant we are 虫は我々よりずっと豊富だということです

4.2 Google Form に投稿する日英等価表現(DAY1 ペア活動)

図2は、動画を見ながら行った個人のディクテーション活動の後に、ペアで Google Form に投

稿した日英等価表現の一部である。参加者 57 人の実践で、31 ペア (62 人) の投稿となっているので計算が合わないが、これは、ペアで一つの投稿をするように指示したのにも関わらず、個人で投稿した学習者がいたからだと思われる。図 2 は「J-E equivalent (日英等価表現)」の 1 と 2 のみであるが、実際には 10 まであり、各ペアが 10 の表現を投稿した。

4.1 の個人活動で語彙選択やスペルに誤りがあっても、ペア活動で訂正できたものも多く見られた。ペアで Top 10 の表現を選択したが、この時に「覚えたい」「共有したい」と思った表現が、多くのペアで重なった。教師自身が覚えさせたいと思って選択するような「例外なく without any exception」「～に関して in terms of」「食物連鎖 food chain」のような表現も多く拾われていたが、特に覚えても意味がないのと思うような「カニかまぼこ surimi stick」「イナゴ locusts」や、TOEIC 650 点もあれば知っているだろうと無視してしまうような「無償で for free」「かなりの人 quite a lot of people」もあり、教師とは視点が違うことに気づかされた。また、「知らないうちに by accident」「食料が必要になる more mouths to feed」といったコミュニケーション目的の逐語訳ではなく「伝えるための翻訳」ならではの等価表現も学習者の関心を引いた。

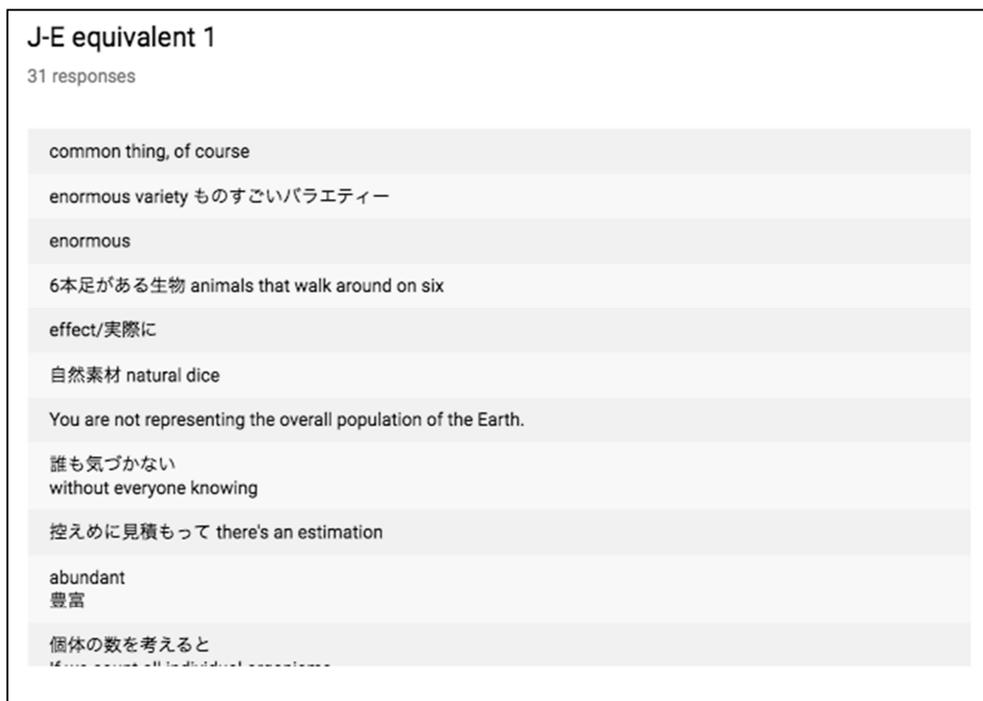


図 2 Google Form に投稿した日英等価表現 (ペア活動)

4.3 日英等価表現集 CTD: Class Translation Database (DAY 1 の後教師が作成)

図 3 は、授業終了後に教師が Google Form に投稿された日英等価表現全てに目を通し、エクセルで一覧表にした表現集である。動画中の登場順に並べてあり、表の左外に時間を表示し、動画のどの辺りで登場するかわかるようにしている。日英等価の他に、教師が気づいたコメントを Notes の欄に書き込んだ。ここには、翻訳の結果元の単語の意味が不鮮明になってしまったものや、類義語や類義表現など、簡単な解説を入れた。1 学期中 4 つの動画を扱ったので、1 つのエ

クセルブックの中に、それぞれの動画ごとのシートに整理した。こうしておくことで、シート検索やブック検索をかければ、過去に学習した表現を簡単に検索することができる。

CTD - Why not eat insects? (TED 2010)			
No.	日本語	English	Note
0:12	1 意がに多い	That's quite a lot.	
	2 地球上の人	the overall population of the Earth	
0:42	3 虫を食べませんか?	Why not eat insects?	Why not...? = Why don't you ...?
	4 6本足がある生物	animals that walk around on six legs	
	5 たくさんの種類がいます	here you see just a selection	just a selectionは「これだけ」の意味だが、ここは文脈上「たくさん」を意味している。
	6 6百万種類の虫	six million species of insects	
	7 哺乳類	mammals	
	8 個体の数で考えた	count all the individual organisms	
	9 もっと差が出ます	we come at much larger numbers	もっと大きな数になります
	10 80%は虫だと考える	80 percent walks on six legs	
	11 (重さを測って) 平均で比べる	take an average weight of them	
	12 要するに	That means	
	13 バイオオマスの考えれば	in terms of biomass	biomass=生物量 in terms of ...の観点から見れば、...に開
	14 虫は我々よりずっと豊富	Insects are more abundant than we are	
	15 私たちが気づいていないだけで	without us knowing	
	16 我々の経済にも影響しています	They also are involved in our economy.	they=insects
1:40	17 数年前に	a couple of years ago	a couple of = two
	18 控えめに見積もった	a conservative estimation	
	19 アメリカの経済における利益は570億ドル	the U.S. economy benefited by 57 billion dollars	
	20 アメリカ経済に対する巨額の貢献	a very large contribution to the economy of the United States	
	21 価値で	for free	
	22 命のかかる戦争	not a cheap war	
	23 同じくらいの金額	about the same order of magnitude	order of magnitude = 桁
	24 誰も気づかない間に	without everyone knowing	
2:23	25 糞を処理する	remove dung	
	26 作物に授粉する	pollinate our crops	pollen = 花粉
	27 虫の悪害	a result of insects (taking care of the reproduction of plants)	虫が植物のreproduction(繁殖)をやってくれた結果 (=悪害)
	28 害虫を駆除する	control pests	
	29 食物連鎖の出発点である	They are at the start of food chains.	they=insects
	30 イナゴ	locusts	
	31 珍味	delicacies	レアな食べ物 (キャビアやフカヒレもdelicacy)
	32 違う種類が食べられる	can eat something new	
	33 (数種類の哺乳類) よりはまだ数が多し	is quite a bit more than (just a few mammals)	
	34 ものすごいバリエーション	an enormous variety	
	35 田舎町	provincial town	province = 田舎、(フランスの) 州、(中国の) 省
3:47	36 例外なく	without any exception	
	37 食品衛生局	food agency	
	38 基準を満たしている限りは	as long as they meet the requirements	基準を回らないので小文字で
	39 加工食品	processed foods	
	40 タンパク質は何からでも摂取できる	anything is a good protein source	
5:03	41 あなたはこう思うでしょう	you may say, "..."	
	42 知らないうちに	by accident	[反] on purpose
	43 知らないうちに... わけではありません。	we are even doing this on purpose	
	44 天然素材で着色する	dye with a natural dye	dye=染める
	45 カニまぼこ	surimi sticks	
6:07	46 地球上の人口	the human population	
	47 もっと食料が必要になる	we have a lot more mouths to feed	

図3 日英等価表現集 CTD (Class Translation Database)

4.4 日英翻訳と英語ディクテーション (DAY 2 個人・ペア活動)

この活動では、動画前半の日本語訳文から教師が選んだ5文を、学習者が個々に英語に翻訳した。その後、ペアでお互いの翻訳を批評し合い、最後にペアで音声の英語をディクテーションした(ハンドアウト:付録2)。これで、DAY 2の TILT 活動を通して、ディクテーションした英文・学習者の翻訳文・ペアの翻訳文、つまり、1つのSTに対する合計3通りの産出の仕方を経験したことになる。この後、教師の翻訳を2通り紹介したので、最終的には1つのSTに対し合計5通りの産出にふれた。翻訳をSTと比較した時に「equal (等しい・同じの)」ではなく「equivalent (等価の)」とするのは、言語が違えば全く同じ対応表現が存在することはなく(Nida, 1964)、翻訳には無数の訳出の可能性があるからである(Bellos, 2011)。本実践では、学習者がこの翻訳の性質を協働学習によって経験することができた。

以下に、本実践の練習問題として選んだ5文のうち、2番の翻訳例を示す。

[練習問題2 翻訳例]

ST: 虫は、我々が気づいていないだけで、経済にも影響を与えています。

動画英語音声(もとの英文):

Insects are involved in our economy, usually without us knowing.

学習者 1 の翻訳例:

Insects are influence on the economy, while we don't notice.

学習者 2 の翻訳例:

Insects are in our economy although we don't know that.

学習者 3 の翻訳例:

Insects are affects economy without our notice.

学習者 4 の翻訳例:

Insects are affecting to the economic while we are not aware of it.

学習者 5 の翻訳例:

Insects are affecting our economy, just we don't know.

学習者 6 の翻訳例:

Insects are having an influence on economy which we haven't paid attention to.

教師の翻訳例(活動後に学習者に提示):

- We don't normally realize that insects are having an impact on our economy.
- Most of us are not aware of the fact that insects are affecting our economy.

「気づく」には「notice」が多く使われていたが、「know」「be aware of」「pay attention to」など、様々な表現が見られた。「影響」は「influence」「affect」が主に使われていたが、学習者2のように「in」で「影響」に対応する英語を入れていないが意味的に「影響」を含んだ成功例もあった。音声の英文も「be involved in」で「影響」に対応する英語はなく、日本語に訳すときに「影響」が登場したのであるが、元の英文とほぼ同じ表現に戻ったのは興味深い。「～だけで」は「while」「although」のように「～けれども」の意味に解釈して接続詞を使う者、逐語的に特に意味を考えず「just」を入れる者などがあった。「just」は不可であるが、「～だけで」を「～けれども」と逆接表現に置き換えたのは、意味を考えれば成功例とみなすことができる。英語音声と教師の翻訳例には「～いないだけで」の表現は含まれておらず、「経済にも影響を与えています」を「気づいていない」の目的語としたシンプルな構文になっている。

このほか、ST は「気づいていない」と完全否定になっているのに、動画の音声と教師の翻訳例には、「usually」「normally」「most of us」と言った部分否定の表現が含まれている。これが訳出できている学習者は、教師が教室を巡回して見た限りではいなかった。翻訳をする時には ST になくても意味を考えて訳出しなければ正確に意味が伝わらないことが頻繁に起きる。翻訳演習を通じて、こういった気づきを促す機会にもなった。

4.5 記述式アンケートから見る学習者の TILT 学習への反応

本実践 8 回の授業で、前半の 4 回(動画 2 つ)の後に中間試験、後半の後に期末試験を行っ

た。動画の TILT 活動の評価は翻訳課題としたためこの試験には含めていないが、この時に本実践についての感想を自由記述式アンケートで集めた。中間も期末も内容にあまり差がなかったため、以下に両方をまとめたものを示す。DAY 1 も DAY 2 もコメントをカテゴリーに分けているが、これは、カテゴリー毎に学習者が記述したのではなく、アンケート結果をもとに筆者が分けたものである。

アンケート結果(中間 n=51、期末 n=51)

[DAY 1: 日英等価集 CTD を作るための学習者と教師との協働作業について]

リスニングについてのコメント

- ディクテーションで何度も繰り返し聞くので、リスニング力が上がる。
- 聞き取りづらいものを字幕で予想しながらできるのが楽しい。
- 日本語字幕を見ながら英語の音声を聞き取るのは難しい。

ボキャブラリー・ビルディングについてのコメント

- 日英ペアをメモすることで新しい表現を身につけることができる。
- 各ワードの自然な流れなど、こういう言い方があると発見できる。
- 知っている単語でも知らない訳を発見できて楽しい。
- 日本語字幕だとこんなふうに訳すのかと新しい発見ができる。
- 語彙力が上がった気がする。

協働活動についてのコメント

- 聞き取れなかったところを協力できるところがいい。
- 疑問に思うところや拾う表現が、割とみんなと同じ。
- ペアや等価集で共有して、自力では気がつかないところを学べる。
- 色々な訳を CTD で見られるのがいい。
- クラスでシェアすることで聞き流してしまっていた部分に気づける。

学習法についてのコメント

- 今までにやったことのない学習法で新鮮。
- 勉強になるので、これからもっと TED を見ようと思う。
- リスニングが苦手なので、新たな勉強法として利用していきたい。
- リスニング練習になるし楽しいから自分でもしたい。
- このアクティビティは自分でできそうだが、なかなか自分一人でやるという気持ちが起きにくいと思うのでためになる。

[DAY2: 日英翻訳&ディクテーション]

リスニングについてのコメント

- 先に翻訳をするからディクテーションがわかりやすい。
- 一つ一つの文に集中することでリスニングの練習になる。
- リスニングを鍛えるからいいエクササイズ。

- ディクテーションが難しい(速い、省略、聞き取れないフレーズ)。

翻訳についてのコメント

- 自分では思いつかないネイティブの表現など新しい発見がある。
- 自分が翻訳していると実感できる。
- 頭を使っている感じがする。
- 自分の訳文と原文があっているとうれしい。
- 自分の訳、ペアの訳、元の文が全部違うので、たくさん勉強になる。
- 同じ文を訳しているのに、全然違って面白。
- ディクテーションで聞いた文と自分の英訳での違いがはっきりわかるので、次からはこう訳そうという知識を得ることができる。
- 自分の頭の中にある活用形や句を覚えているかを試せて良い。
- 自分で考えて表現する訓練になる。
- 英訳するときは個性が出ると思った。

協働活動についてのコメント

- 他の人と意見を交換できる良い場だと感じた。
- 人と比較することで新しい発見ができる。
- 自分や他の人の英文のどこがいいか悪いかを比較できるのがいい。

以上のように、英語学習(リスニングや語彙の強化)や協働学習の効果、さらには「これからもっと TED を見たい」「新たな勉強法として利用していきたい」など、自律学習促進にも効果がある可能性が見られた。英文ライティングやスピーキングといった産出能力の向上は、アンケートでは直接的には示唆されなかったが、「自分が翻訳していると実感できる」「頭を使っている」「いろいろな訳し方」など、日英翻訳を英文ライティングと捉えれば、間接的に産出能力の向上が期待されると言えるであろう。

5. まとめ

本稿では、翻訳の外国語教育への応用の有効性を検討するために、一連の TILT 活動の実践を通して、学習者の活動や反応を観察した。多くの学習者が翻訳に高い関心を示し、これを外国語学習の活動に組み合わせることを新しい学習法と捉え、英語学習への動機付けに役立つという感想を持った。また、学校教育の中で、正解が一つだけの英作文や並べ替えおよび空所補充問題に慣れてきた学習者が、翻訳では幾通りもの正解がありうることに気づき、これを批判的思考や学習の機会と捉えたことから、翻訳を外国語教育に応用する TILT の効果が示唆された。

なお、本実践の学習者は、TOEIC の取得点数だけを見ると比較的高い習熟度であったが、習熟度の低い学習者にも、易しいトピックを選ぶ、あらかじめ語彙を与える予習を加える、などの工夫によって、本実践の応用は可能だと考えられる。

本実践では、語彙学習(学習語彙の収集と蓄積)・リスニングのトレーニング(ディクテーション)・英文ライティング(日英翻訳)を一連とした TILT 活動を行ったが、この他にも様々な場面で翻訳

を外国語教育に応用していくことができると考えられる。本実践が、他の研究者や実践者への TILT の一提案になることを期待したい。

.....
【著者紹介】

ラムスデン多夏子 (RAMSDEN Takako) 実務翻訳者 (日英・英日)。京都外国語大学英米語学科専任講師。翻訳を外国語教育に応用する TILT (Translation in Language Teaching) に高く関心を持ち、実践・研究を行っている。TED Talk の翻訳にも携わる。

.....

【注】

¹ 本稿では、GTM (Grammar Translation Method) の Translation が英和訳読・英和訳・和英訳の意味を含むと捉え、GTM の一般的な日本語訳である「文法訳読法」の語を使用しない。(英語教育だけではない外国語教育の文脈では、和が L1、英が L2 に置き換わる。)

² Learning Management System。日本語では、学習管理システム、教育支援システム、授業支援システムなどの名称で呼ばれる。本実践で使用した manaba の他に Moodle、WebClass などがあり、大学などの教育機関単位で使われている。LMS 上で、教師が学習者へ学習教材を配信したり学習者が教師へ課題を提出したりできる。

【参考文献】

Bellos, D. (2011). *Is that a fish in your ear?—The amazing adventure of translation*. London: Penguin Books.

Cook, G. (2010). *Translation in language teaching*. Oxford: Oxford University Press.

Council of Europe (2001). *Common European framework of reference for languages: learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.

Dicke, M. (2010). *Why not eat insects?* TED Global 2010. [Online]
https://www.ted.com/talks/marcel_dicke_why_not_eat_insects/transcript (2019年5月26日現在)

Kerr, P. (2014). *Translation and own-language activities*. Cambridge: Cambridge University Press.

Nida, E. A. (1964). *Toward a science of translating*. Leiden: E. J. Brill.

Paz, O. (1992). Translation: Literature and Letters. In R. Schulte & J. Biguenet (Eds.), *Theories of translation: An anthology of essays from Dryden to Derrida* (pp. 152-162). Chicago: University of Chicago Press.

インタースクール (n.d.)「コース紹介・翻訳者を目指す」 [online]
<http://www.interschool.jp/course/search?language=1&purpose=2> (2019年9月8日現在)

サイマル・インターナショナル (n.d.)「翻訳者養成コース」 [online]
<https://www.simulacademy.com/training/tokyo/english/translation/regular> (2019年9月8日現在)

山田優・豊倉省子・大西菜奈美 (2018)「翻訳は外国語教育に有効か? ~TILT および翻訳プロセス

の脳科学的解明への序章～』『通訳翻訳研究への招待』第19号:39-67.

【付録 1】 DAY1 ハンドアウト

Translation Exercise 1 – Day 1

Why not eat insects?

Marcel Dicke (TED Global 2010)

[Subtitle reading & listening]

➤ **Work individually.**

1. Watch the first part of the talk (-6:25) with Japanese subtitles while listening to the English very carefully.
2. Write down Jap-Eng equivalents (words or phrases). If you need to listen to the words or phrases again, pause and go back until you are able to write them down.

➤ **Work in pairs.**

3. Compare your notes with those of your partner. If one of you feels some notes are not quite right, check the words or phrases together to help each other.
4. Choose the words and phrases (a maximum of 10) that you and your partner feel you should share with the class. Access the Google Form link given to you on manaba by your teacher, and post the J-E equivalents on it.

**Your teacher will put the J-E equivalents from the class together to create a CTD (Class Translation Database), and post it on manaba. → You can copy and paste the ones you want to add to your MTD.*

[J-E equivalents from subtitle reading & listening]

【付録 2】 DAY2 ハンドアウト 2 ページのうち左ページ

*右ページは左ページ同様 3-5 の日英翻訳／ディクテーション問題

Translation Exercise 1 – Day 2

Why not eat insects?

Marcel Dicke (TED Global 2010)

[J-E translation & dictation] **The procedure can be followed for each sentence individually, or for all 5 sentences together.*

➤ **Work individually.**

1. Translate the ST (J) into a TT (E) assigned by your teacher.

**The teacher might have altered ST to make it sound more natural or make your translation easier.*

➤ **Work in pairs.**

2. Compare your translation with that of your partner. If necessary, help each other correct mistakes (e.g. grammar, spelling, word choice).
3. Listen to the part of the ST given to you, and do the dictation. The number indicated after "Dictation" is the word count of the sentences in the script.
4. Now you can finally look at the English script. Check your dictation and correct any mistakes.
5. Compare your translation with the script. Write any comments you may have.

1. (1:45/14:54)

虫は自然界にいるだけではありません。我々が気づいていないだけで、経済にも影響を与えています。

Your TT: Insects are not only there in nature, but they also are _____,
_____.

Dictation (4,4): Insects are not only there in nature, but they also are _____,
_____.

2. (3:27/13:08)

毎日でも違う種類のもが食べられます。

Your TT: _____.

Dictation (7): _____.

